

基山町議会
議長 重松一徳様

総務文教常任委員会
委員長 末次 明

所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を終了したので、その結果を報告します。

記

1 調査事項及び調査期日

- (1) 基山町キャンプ場について
- (2) 歴史的風致維持向上計画～基肄城南門跡広場工事について
概要説明及び現地視察 令和3年7月21日（水）

2 調査結果

キャンプ場は、平成3年7月にオープンして約30年が経過している施設である。以前は、こどもクラブ、少年スポーツ団体、町内地域団体等の利用が多かったが、近年、レクリエーションの多様化によって利用者が減少している状況下にあった。しかし、ここ数年コロナ禍の影響などもあり、ひとりキャンプや少人数による利用が増えている状況にあり、今後の利用環境整備や新しいニーズを探るために現地調査を行った。

また、平成30年7月の豪雨災害で甚大な被害に遭った基肄城水門付近は治山ダム等建設で災害復旧も進んでおり、基肄城南門跡地区広場工事予定の現地調査を行った。

(1) 基山町キャンプ場について

利用人数と利用件数の推移は平成28年度65件1,393人、令和2年度91件782人と利用件数は増加しているが利用人数は減少している。キャンプ場運営改善業務事業はコロナ禍後の新しいニーズを模索する事業であるとの説明を受けた。

担当課が求めるニーズについて質したところ、町内の子どもクラブ等の団体や少人数の個人や団体に加え、町外の利用者のニーズにも対応したいとの説明を受けた。

多様な利用者を求めるには多額の費用を必要とするが、町は大規模な計画があるのかと質したところ、現時点ではないが、将来の更新の際には、状況を踏まえ慎重に検討したいとの説明を受けた。

当委員会としては、利用対象者を精査した上で事業を行うように提案した。また、今後のキャンプ場整備については、近隣の農地が耕作放棄地となっているところも多く地区全体を考慮した計画を検討するよう提案した。

(2) 基肄城南門跡広場工事について

従前から要望が多かった基山及び基肄城の史跡を散策をする登山者用のトイレを設置した広場を計画しているとの説明を受けた。

平成 30 年と同規模の災害が起きた場合への対策は十分なのかと質したところ、上流には想定される豪雨に対応できる治山ダムが建設されているので、今回、この工事を予定しているとの説明を受けた。

当委員会としては、基肄城跡やキャンプ場等周辺施設を利用する人にとって憩いの場となる施設であれば、広場をすべてアスファルト舗装ではなく多目的に利用できる工法も検討するよう提案した。